

保育計画成果報告書

法人名	株式会社 ちゃいるどらんど
施設名	ちゃいるどらんど六丁の目南保育園
報告者（役職）	中芝 真紀（保育主任）
住所・連絡先	仙台市若林区六丁の目南町1番1号
	☎ 022-352-3105 E-mail

○タイトル（保育計画）

ミニ園庭の整備

○主な助成備品

テラスターフ、滑り台、プール

1. 保育計画策定の目的

- ・工夫された環境の中で、遊びや友だちと関わり、集中して遊ぶことで発達を促す。
- ・戸外遊びを通して、四季の移り変わりを五感で感じる。

0歳児…人工芝の感覚に触れながらはいはいしたり、芝の上を裸足で歩いたりして開放感を味わい歩く経験をする。

1歳児…保育士と関わりながら、喜んで体を動かして遊ぶことで健康な体づくりを目指す。

2歳児…プール内を空間として利用し、遊びのはばを広げ、友だちと関わりながら集中して遊ぶ。季節ごとに楽しめる遊びを体験する。

【プール内を空間として利用】



2. 具体的な実施内容

春：裸足遊び、ひなたぼっこ

新入園児は、慣れない環境に泣いてしまう様子もありましたが、戸外という開かれた環境により、自然と遊びに入ることができていました。0歳児は、プールの空間をパーテーションとして利用することもあり、“寝ころぶ”、“伝い歩き”、“はう”、“歩く”など発達にあわせての活動をしました。1,2歳児はプール内で寝転んでみたり、ヒラヒラと飛ぶちょうちよを見つけて喜んだりしました。肌で感じる温かな陽の光、春風の香りに「いいにおいする」と、心ときめかせる子どもの言葉に心温まる思いがしました。

夏：遊具（すべり台）、水遊び（0歳児は別プールを使用）

すべり台では、保育士が側につき、階段⇒滑るという流れが自然と身につきました。保育士は「一人ずつ」「順番に」と繰り返し伝えながら補助しました。

バランスをとりながら自分の力で階段を上がり、すべり台をすべる楽しさを味わいました。

【しっかりと順番を守ってすべる子どもたち】



水遊びでは、水に浮かべた金魚やボールをつかむ、ひろい遊びから始まり、じょうろやバケツに水を入れてみたりと、水に触れることを楽しみました。バケツに入れた水を「お花にもあげたい」と言って、花壇にかけてくれる優しい子どもたちの姿も見られました。2歳児になると、よりダイナミックな遊びを好み、水しぶきを立てたり、体にかかる水に「キヤッキヤ」と喜び、子どもたちにとって充実した夏の遊びとなりました。

秋：落ち葉プール

近くの公園に落ちているどんぐりに興味を示し、ひろい始めた子どもたちとの会話が広がり「葉っぱとどんぐりのプールを作ろう」ということになりました。2歳児クラスが中心となって1歳児クラスも葉っぱを集め、プールに入れてみました。大きな葉っぱを顔にあ

て「おばけだぞ」「変な顔」とお互いに笑いあう子どもたち、葉っぱに寝転んで感触や香りぬくもりを感じました。踏むと“パリッ”と割れる音には「どうしてかな？」と疑問を持ったり、葉っぱシャワーには大歓声でした。

【落ち葉プール】



冬：雪のプール、ボールプール、ごっこ遊び

今年はや暖冬ということもあり、雪が少なく雪のプールは実現できませんでしたが、天気の良い日には、ボールを入れて戸外ボールプールを作りました。室内で遊ぶ時とは違った大胆さも見られ、プール内でジャンプしてみたり、顔にボールがぶつかることも楽しみとなっていました。年齢に合わせて、ボールの個数を調整し遊べたのもこの遊びの魅力です。2歳児は、戸外遊びの中で、プールを“部屋”として見立て、赤ちゃんや犬、猫になりきって、ごっこ遊びもしていました。すべり台では、すべり台のローラー部分に数名が座り、電車（バス）ごっこもするようになりました。運転手の先頭の取り合いもありましたが、「順番だよ」と子どもたちから声が聞こえるようになり、子ども同士で解決している姿に成長を感じました。

【電車（バス）ごっこ】



3. その成果と評価

ミニ園庭整備により、限られたスペースではありますが、少しの時間でも戸外に出て体を動かすことができました。“戸外”になることで、室内と同じ遊びであっても、子どもたちの解放感に大きな違いがあり、よりダイナミックな遊び又、集中した遊びとなっていました。子どもたちは、外遊びが大好きになり、寒さも友達といった様子です。体を使って遊ぶようになり、給食の進みもよくなったように感じます。公園でも、遊具に挑戦しようとする姿が多く見られ、体を使っての遊びを積極的に自主的に取り組んでいるようでした。

プール=夏というイメージですが、四季の移り変わりを遊びを通して体験していくことで、子どもたちの興味のはばを広げ、活動も意欲的になり、充実、満足した遊びができたと思います。遊びへの集中力が身についたことで、“待つ”“椅子に座って活動する”“静かに話を聞く”など、生活面においても落ち着いて過ごせるようになり、集中力と忍耐力の向上にもつながりを感じました。

【ちょっとした時間を利用し戸外遊び】



4. 今後の課題と展望

子どもたちが安全に遊べるように、引き続きミニ園庭の整備を行っていくことが大切になります。その中で、遊びの充実を図るには、今年度の遊びの継続、さらに発展させた内容を取り入れたものにしていく必要があります。各クラスでの活動では見られなかったトラブルが、異年齢となると増えていたように感じられたので、その経験、解決までの援助も大切にしながら、合同での工夫や使用方法もよく話し合っていきたいと思います。健康な体づくりを目指し、安心、安全、安定した保育を提供することにより、地域になくはない存在として地域から愛され、地域に貢献できる施設を目指します。

以上